

教科・科目	数学・数学 I	単位数	3 単位	学年・学級	1 年必修（習熟度T-base）
使用教科書	新編 数学 I（数研出版）		副教材	新課程 3TRIAL 数学 I（数研出版）	

学校教育目標		郷土を愛し　たくましく生きよう　自ら学ぶ意欲を　持ち続けよう											
育成を目指す資質・能力		傾聴力			協働力			○	議論する力			○	
		自省力			○	理解力			◎	批判力			
		自己実現力				表現力			◎	情報活用力			○
学習の到達目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①数学についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を考察する力、社会の事象などから設定した問題について適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。											
評価の観点		①　知識・技能				②　思考・判断・表現				③　主体的に学習に取り組む態度			
A 活用できる		・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけ、活用できる。				・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 ・データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。				・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
B わかる・できる		・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。				・命題の条件や結論に着目し、数や式を適切に変形したりすることができる。 ・図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 ・関数関係に着目し、事象の特徴を表、式、グラフを用いて考察することができる。 ・データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決することができる。				・数学のよさを認識し、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。			
C 努力を要する		・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念を理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに努力を要する。				・数や式を適切に変形することに努力を要する。 ・図形の性質や計量について論理的に考察することに努力を要する。 ・関数の特徴を表、式、グラフを用いて考察することに努力を要する。 ・データの散らばりや変量間の関係などの分析を行い、問題を解決することに努力を要する。				・数学のよさを認識し、数学的論拠に基づき判断することに努力を要する。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めることに努力を要する。			
具体的な改善方法		・理解できなかった部分は、その日のうちに解決する ・繰り返し類題に取り組む ・家庭学習を行う ・宿題を必ず提出する				・解答までの過程を丁寧に記述する ・応用問題に取り組む ・発表やグループでの話し合いなどで、自分の考えを表現する				・あきらめず粘り強く取り組む ・家庭学習を行う ・宿題を必ず提出する ・自らの学習状況を振り返って把握し、学習の進め方について改善する			
評価基準 (各10段階)		A	10	～	8	A	10	～	7	A	10	～	7
		B	7	～	4	B	6	～	3	B	6	～	3
		C	3	～	1	C	2	～	1	C	2	～	1
		評価の方法 ・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト ・レポート ・定期考査				評価の方法 ・行動観察 ・ワークシート ・単元テスト ・レポート ・定期考査				評価の方法 ・行動観察 ・ワークシート ・レポート ・授業アンケート			

【学習計画】

月	単元	学習の目標	評価の観点			評価の方法	自己評価	実際評価
			①	②	③			
4	ガイダンス	1年間の学習内容、シラバスの活用方法について理解する。						
	第1章 数と式					行動観察		
	第1節 式の計算					ワークシート		
	1 多項式の加法と減法	・整式の表現等について理解し、加法・減法の計算ができる。	○			単元テスト		
	2 多項式の乗法	・指数法則や公式等を用いた計算ができる。	○					
	3 因数分解	・置換等の工夫をしながら計算ができる。		○	○			
	補充問題	・公式等を用いた因数分解ができる。	○					
		・整式の形によって的確に変形する方法を考察できる。		○	○			
5	第2節 実数					行動観察		
	4 実数	・数の分類について理解し、表現できる。	○		○	ワークシート		
	5 根号を含む式の計算	・平方根の性質について理解し、根号を含む計算ができる。	○			単元テスト		
	補充問題							

6	第3節 1次不等式					
	6 不等式の性質	・不等式の性質を理解している。	○	行動観察		
7	7 1次不等式	・1次不等式を解くことができる。	○	ワークシート		
	8 絶対値を含む方程式・不等式	・身近な問題に1次不等式が活用できることに関心を持ち、考察しようとする。	○ ○	単元テスト		
8	補充問題	・絶対値の意味を理解し、絶対値を含む方程式不等式を解くことができる。	○ ○			
	章末問題					
9	【前期中間考査】		○ ○	定期考査		
		🔄振り返り	○	授業アンケート		
10	第2章 集合と命題			行動観察		
	1 集合	・集合の分類等を理解し、表現できる。	○	ワークシート		
11	2 命題と条件	・命題の真偽の意味を理解し、考察できる。	○ ○	単元テスト		
	3 命題とその逆・待遇・裏	・対偶等の意味を理解し、それらの真偽を考察しようとする。	○ ○			
12	4 命題と証明	・対偶や背理法を用いた証明法について関心を持ち、考察できる。	○ ○			
	補充問題・章末問題					
13	第3章 2次関数			行動観察		
	第1節 2次関数とグラフ			ワークシート		
14	1 関数とグラフ	・関数の定義等を理解し、1次関数のグラフが書ける。	○	単元テスト		
	2 2次関数のグラフ	・放物線の性質を理解している。	○			
15	8 補充問題	・グラフの平行移動を理解し、平方完成ができる。	○			
	【前期期末考査】		○ ○	定期考査		
16		🔄振り返り	○	授業アンケート		
17	第2節 2次関数の値の変化					
	3 2次関数の最大・最小	・2次関数の最大値と最小値を求めることができる。	○ ○			
18	4 2次関数の決定	・2次関数の決定条件に興味、関心を持ち、考察しようとする。	○ ○			
	補充問題					
19	第3節 2次方程式と2次不等式			行動観察		
	5 2次方程式	・判別式の符号と実数解の個数の関係を理解し、解の考察ができる。	○	ワークシート		
20	6 2次関数のグラフとx軸の位置関係	・x軸の共有点の個数や位置関係を判別式の符号から考察できる。	○ ○	単元テスト		
	7 2次不等式	・2次関数のグラフと関連付けて2次不等式を解くことができる。	○ ○			
21	補充問題	・身近な問題を2次不等式の問題に帰着させ、問題を解くことができる。	○ ○			
	章末問題					
22	第4章 図形と計量			行動観察		
	第1節 三角比			ワークシート		
23	1 三角比	・三角比の定義を理解し、具体的な事象を三角比の問題として考察できる。	○ ○	単元テスト		
	2 三角比の相互関係	・三角比の1つの値から残りの値を求めることができる。	○			
24	3 三角比の拡張	・鈍角の三角比を定義し、問題を解くことができる。	○ ○			
	補充問題					
25	【後期中間考査】		○ ○	定期考査		
		🔄振り返り	○	授業アンケート		
26	第2節 三角形への応用			行動観察		
	4 正弦定理	・正弦定理の図形的意味を考察し、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。	○	ワークシート		
27	5 余弦定理	・正弦定理を利用し、三角形の辺や角の大きさを求めることができる。	○	単元テスト		
	6 正弦定理と余弦定理の応用	・余弦定理の図形的意味を考察できる。	○			
28	7 三角形の面積	・余弦定理を利用し、三角形の辺や角を求めることができる。	○			
	8 空間図形への応用	・条件に応じて正弦定理と余弦定理を使い分けて問題を考察できる。	○ ○			
29	補充問題	・条件に応じた方法で三角形の面積を求めることができる。	○ ○			
	章末問題	・正弦定理と余弦定理を空間図形の計量に応用できる。	○ ○			
30	第5章 データの分析			行動観察		
	1 データの整理	・データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	○ ○	ワークシート		
31	2 データの代表値	・代表値を求めることができる。	○	単元テスト		
	3 データの散らばりと四分位数	・中央値を求める有用性について考察できる。	○ ○			
32	4 分散と標準偏差	・範囲や四分位数、箱ひげ図のかき方を理解し、データの比較ができる。	○			
	5 2つの変量の間の関係	・分散や標準偏差の定義とその意味を理解し、求めることができる。	○			
33		・散布図から相関関係を考察することができる。	○ ○			
		・相関係数を求め、データを考察することができる。	○ ○			
34	【学年末考査】		○ ○	定期考査		
		🔄振り返り	○	授業アンケート		
35	6 仮説検定の考え	・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	○ ○	行動観察		
	3 補充問題			ワークシート		
	章末問題					

🔄最終評価（自己評価／実際評価）

① 知識・理解	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度